

**第479回 5月27日開催
出席委員（50音順・敬称略）**

荒巻 裕	大村 英昭
木下 明美	倉光 弘己
黒田 勇	櫻井 美幸
深井 麗雄	

**テレビ・こどもの日ドラマスペシャル
「シンシア～介助犬誕生ものがたり」
03年5月5日（月）午後3時～4時24分 放送**

***倉光委員**

今回のドラマは、制作意図や動機が明確で、非常に精緻に作られた水準の高い作品だと言える。思わずホロリとくる場面もあったが、冷徹な批評家の目で見ると、何かひっかかるものがあった。それは、ストーリーがきれいに整理され過ぎていて、作られたという印象を持ったことだ。もう少し雑味といったものがあれば、深みも一層増したのではないかと思う。

***櫻井委員**

主人公の絶望感や現実を受け入れるまでの苦しみ、それに奥さんの戸惑いといった夫婦の心の揺れがよく描かれていた。自分自身をそれぞれの立場に置き換え、共感しながら見ることができ、非常に良く出来た作品だ。現実に即したドラマなので、障害者に対する理解など、見る者に色々なことを考えさせてくれる点で高く評価したい。

***深井委員**

毎日新聞が5年という歳月をかけて展開したキャンペーンを、テレビは1時間半という時間の中で、あれだけの水準のドラマに仕上げた。映像メディアのすごさを再認識した反面、弱さといったものも感じてしまった。活字媒体は、じっくりと読者に訴えて行くが、映像はある意味で一発勝負と言えないか。今後、活字と映像が棲み分けしながら、協力できる所は協力して行くことが重要だ。

***木下委員**

実話に基づいた、子どもにも理解できる分かりやすいドラマなので、学校や地域のサークルの教材として活用出来ないものか。メディアが教育の場で貢献できるような方法を考えてほしい。それから、演技の面では物足りなさを感じた俳優が、かえって印象に残ったのは、脚本がしっかりしていたからだと思う。障害者を取り巻く社会を理解する上で、優れたドラマだと言える。

*** 黒田委員**

新聞とテレビのメディアミックス、それに地域、個人、行政などがかわる課題を取り上げた、これこそローカルドラマの理想ではないかと思った。力作だからあえて言えば、小道具や衣装のほんのささいな違いによって、突然ドラマのリアリティーが崩れ去って行くということを制作者は忘れてはならないと思う。視聴者との時代の共有こそが大切なことなのだから。

*** 荒巻委員**

私が思う良いドラマの条件とは、感動の押し付けをしないこと。また、私たちが生きて行く上で共感できるような具体的事実の積み上げを大事にすること。今回のドラマは、これらの条件を兼ね備えた良質の番組だと思う。今後も、痛みや苦しみを持った人の立場に立った上で、さらにそれを昇華させたドラマやドキュメンタリー作りを続けて行ってほしい。

*** 大村副委員長**

ドラマとしての出来栄は良かったが、私のゼミにいる障害者支援のボランティアグループの活動を目の当たりにしていると、現場のリアリティーという点でやや浅い感じがした。介助犬のかがいしさには胸を打たれるが、人間が介助しなければならぬ場面はたくさんあると思う。障害のある人の苦しみをもっと深い所まで描いてほしかった。

毎日放送独自の言葉のガイドブック「気をつけたい放送のことば」を発刊したことを、広報室長が報告した。